

B

ook 必読本

【書評】

瀟洒で艶っぽい都会的な短篇集

文池上 冬樹 (文芸評論家 text by Ikegami Fuyuki)

なんでもない話から意外な機微を捉え、複雑な心理の裏をあらわにして人生の深淵をのぞかせる。かつては吉行淳之介や吉村昭や神吉拓郎などが洒脱な作風で見せた名人芸が、ローレンス・ブロックの作品にあ

る。もちろん著者はミス터리作家なので、ミステリとしての結構となるけれど。たとえば、探偵マッド・スカダーが事件のみみ消しに奔走する「レッツ・ゲット・ロスト」、自殺した男の謎を探る「おかしな考え

を抱くとき」などは、人生の皮肉な現実を諦観とともにさりげなく示して見事だし、隠された内面を最後の一行で表す「やりかけたことは」は実に不気味で怖いし、「情欲について話せば」はほとんど長篇並みの物語の厚みがあり、本書の白眉だ。



『やさしい小さな手』
ローレンス・ブロック著 ハヤカワ文庫
1000円+税

本書は、もともと短篇の名手でありながら短篇集が近年出なかつたブロックの最新傑作集といえるだろう。瀟洒で艶っぽい都会的な短篇集だ。

【私の感動した本】



マングローブ社長

今野 誠一
Imano Seichi

『経済成長神話からの脱却』
クライヴ・ハミルトン著 アスペクト
「成長戦略」という言葉が流行語大賞の中に入っていたかどうかは未確認であるが、入っていてもおかしく

ないくらい新政権の課題として、この言葉が連呼されている。無批判に条件反射のように出てくる「成長戦略」そして「景気対策」という言葉。そのことを常識として捉えてしまい、人々が思考停止にすることを著者は戒めている。『ポスト経済成長社会』と

いう最終章で著者は、「スローライフへのシフトダウン」幸福を追求する政策「ポスト経済成長時代の経済」現実を見据えた権力と社会構造の再構築」を提案している。提案の実現性はともかくとして、常識を鵜呑みにせず、常に覚醒したものの方をしていかななくてはならないということを決意させられる一冊である。

ZAikai LIBRARY



朝日新聞出版
1800円+税

『最強男子』高橋大輔・織田信成・小塚崇彦
青嶋ひろの著
バンクーバー五輪フィギュアスケート男子日本代表に選ばれた最強男子。長年三人を取材してきた著者が徹底分析。



ダイヤモンド社
1600円+税

『経営の教科書』
新将命著
企業トップの話聞き、社内の様子を見渡せば会社の状況が見えてくる。重要な「経営の原理原則」を探る。



かんき出版
1300円+税

『仕事に必要な言葉』
島田精一著
メキシコでの投獄や昇進の遅れなど、ビジネス人生雨ばかりという著者を勇気づけてくれた魔法の言葉とは――。